

4-⑩大阪市北部地域・府立茨田高校跡ににできる新校の整備に関連して発言したいと思いません。

今年度開校した一番新しい出来島支援学校は今後の新校整備の一定のモデルになると考えています。この出来島支援に今年度になって府教委は突然、「多目的室」を貸し出すという形で就労移行支援事業所を公募し、一般就労を目指す小中高の一貫したキャリア教育に対して助言やノウハウを提供するという方策を打ち出しました。教育課程を編成する権限を負っている現場の先生方も公募された去年の10月末までご存じなかった。

府議会で維新の会の議員さんからの要望があったということですが、これが言われているような府民のニーズ或いは市場のニーズなののでしょうか？公募して審議結果が出るまでわずか2か月、3階も説明会をやっても公募に応えた事業所は1カ所しかなかった。最優秀提案者として選ばれたのは4年の就労継続支援B型事業の実績しかない合同会社というではありませんか。

西淀川によりよい知的支援学校をつくる会のアンケートでは小学部棟や寄宿舍、学部用プレールームなどの設置や防災対策などたくさんの要望が寄せられ、府教委にも届けられていたと思います。「多目的室」のこれだけの広さがあれば、教室4個分は入るわけですから、小中高の共用施設が多い中で例えば小学部専用のプレールームとか集会室などにも出来たわけです。万が一、過大・過密になれば特別教室をなくさなくてもいいかもしれない。

そこでお聞きしたいのですが、こうした福祉事業所との連携方策は今後も新校整備に取り入れるということでしょうか？府教委の資料によれば茨田高校跡にできる新校の構想図面には「地域支援棟」というのがあります。この内容について教えてください。

もう一つお聞きしたいのは、卒後の学びの保障についてです。大阪府の2024年度学校基本統計によれば高等学校の卒業生の大学等進学率は過去最高の68.9%で就職者の割合は過去最低8.1%というではありませんか。一方支援学校卒業生の大学等進学率はわずか1.2%、就職率は14.9%です。この高校と支援学校の進学率の差別的な状況にある格差を是正する考えはないのでしょうか？

私は特色のある支援学校をつくるというのなら国連の障害者権利条約や一昨年に出された総括所見に沿って全国に先駆けて高等部に希望すれば誰でも進学できる専攻科を設置したらいいかと思うのですが、どうですか？大阪府のホームページによれば支援学校卒業後等の障害福祉サービスを活用した学びの場は公表を始めた平成元年の6カ所から6年間で16カ所にまで広がっています。卒後の学びに対するニーズも年々高まってきているし、大阪府も奨励してきているではありませんか？民間が苦勞して卒後の学びを支えている。

高等部に専攻科を設置すれば進学率も高くなるし、学んだ卒業生の就職後の定着率も上がるし、多様な進路が切りひらかれるのではありませんか？「地域支援棟」のところに専攻科を設置したらいいかでしょう？

茨田高校の地元では「鶴見区にステキな支援学校をつくる会」ができて皆さんのねがいを集めるために教育・福祉関係者への働きかけを精力的にしてきました。府教委からの働きか

けがない区役所や地域自立支援協議会、情報を知らされていない地元の就学前・学齢期の保護者の皆さんなどにもお伝えすると地域に根ざしたステキな学校をつくって欲しいという期待の声がたくさん聞かれます。まさに支援学校の過大・過密を解消し支援学校を整備するという大阪府・府教委の施策の応援団だと私たちは自負しています。最後にお願いしたいのは府民、地元の住民のねがいに応えた支援学校をつくるために是非とも私たちの会と懇談を持っていただきたいということです。

宜しく申し上げます。